とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区岩本町２－10－12
園名	岩本町ちとせ保育園　４･５歳児

１．活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

光の性質に気付き、光には影が関係していることを発見する。光と影をつかって様々な遊びを通して探求していく。

２．活動スケジュール

１１月：魚に見立てたペットボトルが光に反射して光の不思議を楽しむ
１２月：ライトテーブルで遊ぶ
１２月：砂絵
１月：カラーセロハン等を使って影絵遊び
２月：電子黒板を使って取り組みを振り返り、今後の活動を考える
２月：光と影を使って表現する【うみのりょこう】活動の実施

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

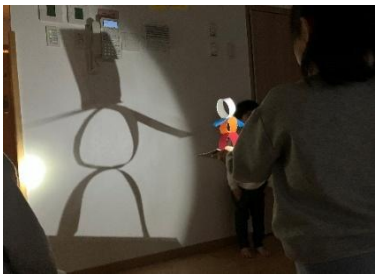
室内環境：自然光の入る保育室、サンルーム
暗幕を全面に貼った遊戯室
物的環境：
・ライトテーブル
・懐中電灯、マグビルド、オクトレンズ、アクリル積み木
レインボーブロック
・子どもたちが制作した船、貝殻、魚
素材：カラーセロハン、画用紙、プラカップ、段ボール、気泡緩衝材、ペン、カラー折り紙、オリエンタル折り紙
・アクリルケース、砂
・電子黒板

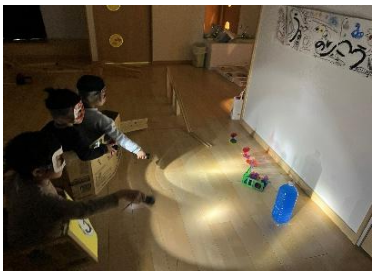
＜活動の内容＞

・廃材製作でペットボトルが光に反射することを発見
・懐中電灯を使って遊び、光と影の関係に気付く
・ライトテーブル上で、クリアブロックを組み合わせ、色の変化や美しさを感じる
・ライトや太陽光で影をつくることを経験し、光と影の不思議を楽しむ
・廃材制作で海の生き物をカラーセロハンを用いて魚を作り、暗い部屋の中で懐中電灯を使って魚にあててみるとどのような変化があるか試してみた。
・ライトテーブル上で、砂絵を楽しむ
・電子黒板を使用して活動を振り返えり、これからの活動の話し合いをする
・みんなで光をつかって海の中をつくろうという計画がはじまる
・「うみのりょこう」に必要な道具を友達と協力して作る
・暗幕を貼った遊戯室で「うみのりょこう」楽しむ

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

・ライトテーブルでは下から光が当たると普段とは違った世界が広がることに興味津々で組み立てた後の色の変化を楽しんだり、観察をする角度を変えてじっくりと光と色に関わる姿が見られた見られた。「こっちでみると〇〇色になる」「キラキラしていて綺麗」自分たちで光を探すということに興味が高まる
・懐中電灯を自由に使って光と影の関係性や懐中電灯の使い方で影が変化することに気づき「大きくなった」「こうすると〇〇になるよ」等伝え合う姿が見られる
・ライトテーブル上で砂を使って自分のイメージしたものを表現し、友だちに共有する姿が見られた。「きれい！」「さらさらしていて気持ちいい」「〇〇を作ってみよう」自由自在に扱える砂に魅力を感じているようだった
・電子黒板を用いて今までの取り組みを振り返る。子どもたちの理解度が高まり、意欲的に活動に参加し、これからやりたいことを話す姿が見られた
・光と影に興味が高まったところで光の玩具を用いたり、自分たちで透ける素材を選んで海の生き物を制作し、遊戯室全体を使って『うみの旅行』をイメージした空間を作っていった。『うみの旅行』では光探しをねらいとして行った。
ただ海の中にいくだけではなく一人一本懐中電灯を渡して「海の中で光をたくさんみつけてきてね」と伝えたことで様々なものに懐中電灯をあててどのように反射するのか変化を楽しむ姿が見られた。
船にのったスタイルで探索したり海の中という空間も楽しみつつ、光を当てて反射する光の変化や美しさに面白さを感じていました。光の形を〇〇みたいと自分なりに見立てた発見を共有する姿もみらた
『光が大きくなったり小さくなったりしてた』『真ん中だと上にうつる、端っこだとかべにうつるのが楽しかった』『みんなが作ったやつが壁に光って面白かった』





5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

光の玩具を使うだけでなく、そこに子どもたちの作ったものも加えることで、より子どもたちが光の世界に入り込み、関わりを楽しむ姿が見られたように感じる。また計画から子どもたちにチャレンジさせるような活動ができ、子ども同士の自由な世界観の中でそれぞれ自主性を発揮する姿がみられ良かった
玩具をきっかけに光の美しさや特性をより深く知ることができたように感じる
※またこの活動を年度末の保護者会で、電子黒板を用いて１年間の子どもたちの成長、活動の振り返りとして見てもらった。保護者に活動の理解を深めてもらったことはとても良かったと感じている。